

# 初めての出産を迎えるご家族へ



ご愛犬のご懐妊、おめでとうございます。新しい家族を無事に迎え入れるための心構え、対応について以下の点を押さえながら準備を進めていただければと思います。

## ①妊娠がわかったら

交配後、30日程度で超音波検査にて胎児心拍が確認できます。

交配後**58日～60日**くらいを目処にレントゲン検査にて最終的な頭数・胎児の大きさ、母犬の骨盤径などを計測します。

この時期に**必ず病院を受診してください。**



## ②家での観察点

- ・食欲 : 食べない時は小分けにあげて下さい。
- ・体重 : 週1回程度の測定をお勧めします。
- ・体温 : 予定日の4-5日前から1日4回程度の測定を行ってください。

犬の平熱：37℃～39℃

出産前：36.5℃程度まで下降→上昇

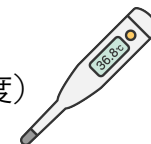
※**体温が下がり始めたら病院にお知らせください。**

## ○体温測定について

先端が柔らかいタイプの体温計を使って、直腸温（お尻の温度）を測ります。

お尻の穴から1 cm程度、体温計を入れてください。

その時、少し背中側に寄せるようにすると正確に体温を測れます。



## ③出産前の準備

### 必要なモノ

- ・出産用の入れ物or小部屋：少し薄暗くて大きくない場所(ケージなど)。冬場の出産では暖かい事も重要
- ・清潔なタオル：ハンドタオルを複数枚。仔犬を取り上げる事もあります
- ・綺麗なハサミと糸：取り上げた子犬のヘソの尾を縛るためのもの
- ・秤：子犬の体重を測るため。数十g～1000gくらいまで測れば良い
- ・リボンなど目印：複数の子犬がいるときや、柄の似た子犬がいる時に
- ・哺乳瓶、ミルク：母乳の出が悪い時もあるため

## ④お産

体温降下開始からだいたい24時間後、

最下点からだいたい12時間後に分娩が始まります

体温の低下が認められたら、母犬を巣所に連れて行き出産に備えましょう。

破水：お産の直前には透明～少し濁った水が大量に出てきます。尿と間違えないようにしてください(尿と違いあまり臭いしません)

※破水後、3時間以上しても1頭目が出てこない、イキんでいるけど胎児の頭が出てこない、母犬がぐったりして動かないなどは難産で緊急的に処置が必要になる可能性があります。速やかに病院へご連絡ください。

# よくあるQ&A

## ①犬のお産は安全と聞きましたが？

→大型犬で難産となることはあまりありませんが、小型犬で難産はよくあります。

**お産の予定日を過ぎている、破水してもなかなか出てこない、イキんでいるが胎児が出てこない、母犬がぐったりしてきた、**などを認めるようであればすぐに病院を受診して下さい。



## ②分娩の時には放っておいても大丈夫？

### 【分娩の介助】

→通常の分娩時には母犬が自ら胎児のヘソの尾を噛みちぎり、自分で胎膜を破り、子供を舐めて刺激し呼吸を促す行動をします。自然任せで良いのですが、

- ・初産の母犬
- ・緊張度の高い母犬

などは正常な分娩時行動を示さないことがあります。(産後の胎児に対して何もしない)

その場合には人間が代わりに子供の介助をする必要があります。

A:胎膜を破る：手で引き裂いて顔から出してあげて下さい。

B:ヘソの尾を縛る：糸でヘソから1cmくらいのところ。

C:清潔なハサミで切る：糸よりも少し離れたところを切る。ハサミの消毒はアルコール消毒や煮沸でも良い。

D:胎児を清潔な乾いたタオルで包み首筋～背中にかけて擦って刺激する

→呼吸を促す刺激となり、やがて自分で産声をあげる様になります。長いと5分くらいかかる事も。

呼吸が出なくても直ぐには諦めないでください。



※出産の介助は慣れている獣医療スタッフでも緊張します。とにかく1つ1つをこなす事が大事です。

落ち着いて深呼吸し、上の手順を1つ1つこなしていく様に頭の中で何度もイメージトレーニングをしておきましょう。

### ③母犬のおっぱいが出ているか分からない

→初産の子ではお乳が出にくいことがあります。出にくい+乳腺炎で乳房が張ってしまい授乳を母犬が嫌がるケースもあります。

出産後、1-2日でお乳の出が悪く、乳房付近を触ると嫌がる感じがある様であれば(仔犬の授乳から逃げるなど)

・40℃くらいに温めたタオルで乳房全体を温める→優しくマッサージ、で泌乳を促してあげてください。



### ④子犬の成長

→子犬は母犬からきちんと授乳できていれば順調に体重が増えていきます。生後直ぐ(生後0日目)に体重をg(グラム)単位で測り、記録しておいてください。生後1日目は体重が少し減ることがほとんどです。ここから徐々に授乳できる量が増えていきますが、生後2日目以降も体重が増えない場合、補助として犬用のミルクを与える必要が出てきます。

#### 【犬用ミルク】

あげる量・作り方などの詳細は製品の説明書きをよく読んでください。

ポイントは

①哺乳瓶の吸口(乳首)の穴が小さすぎると出が悪く、大きすぎるとミルクが出過ぎてしまい飲みづらいです。子犬の飲み方を見ながら吸口の大きさを調節していきます。最初は失敗する事もあるため、余分に1つ2つ吸口を用意しておくといいでしょう。

②飲み終わると、自然と吸口から子犬の口が離れます。もう要らないとなったら、子犬の陰部～お尻にかけてをティッシュなどで優しくさすってください。排泄が促されおしっこやウンチが出てきます。

※子犬の体重は毎日必ず記録しましょう。特に最初の1週間が最も大切。

#### 【子犬の要注意サイン】

A・鳴き続ける : 適切な授乳ができていない、何らかの疾患がある 可能性があります。

B・体重が増えない : 適切な授乳量に達していない

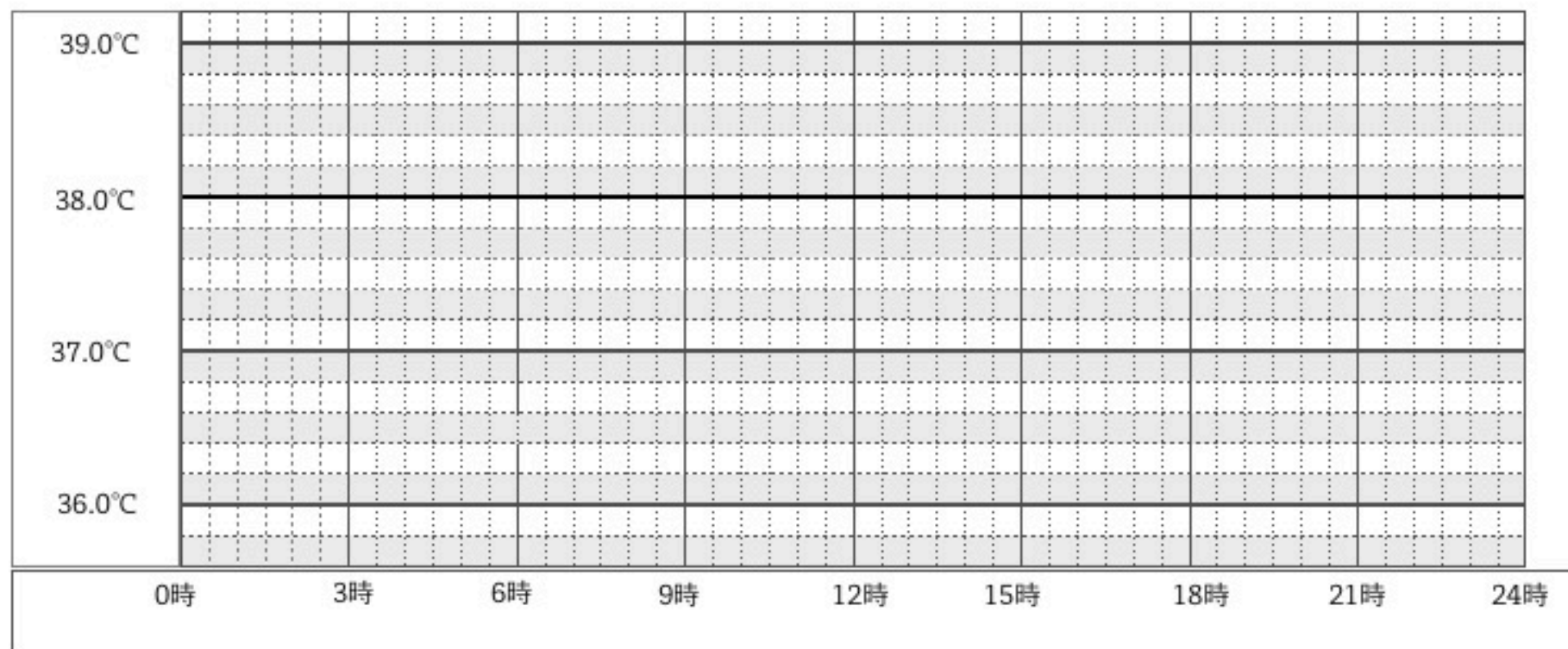


#### 【初乳】

出産直後～24時間以内に出る少し黄色味がかかったお乳で、母犬からの免疫力を仔犬に分け与える上でとても重要です。

**絶対に飲ませる様にして下さい。**

# 出産時 体温記録表      月      日



交配後58日目くらいから毎日記録する様にしてください。  
 コピーしてお使いください。



## ⑤生まれてきた子犬の管理

→先天性疾患の有無は必ずチェック。→口と肛門は必ず見る！！

### A・口蓋裂/口唇裂



←口唇裂の写真

唇の形成が不完全で生まれてきてしまいます。

ミルクの飲み方が上手にいかないことが多く管理には注意が必要です。

成犬になり次第、手術をする事もあります。



←口蓋裂の写真

硬口蓋という口の鼻の境目となる部位が先天性に開いてしまっている異常です。一見正常な授乳を行う様でも、鼻水がミルク色だったりして気付く事が多く、やはり成熟後に手術が必要となる可能性が高いです。

### B・鎖肛



←鎖肛の写真

肛門の形成が不完全で生まれてきてしまいます。

雌ではおしこの出口(尿道口)とくっついてるパターンもあり気づかれにくい事もあります。

弁が出せないため、基本的には何らかの外科的な対応が必要とされます

何が起こるのか分からないのが出産です

備えがあっても憂いあり

でも備えすぎて困ることはありません

できる限りの備えをして 知識を蓄えて

母子ともに無事に赤ちゃん与会える事を1つ目の目標  
健やかに赤ちゃんたちが育つ事を2つ目の目標に据えて

一緒に頑張っていきましょう！！

制作：奥沢すばる動物病院

東京都世田谷区奥沢3-45-1

TEL:03-6425-8049

著作：フリー(商業利用禁止)

